

旭川信用金庫と上川総合振興局との包括連携協定

～平成26年度の取組～

1 地域資源を活かした新たな事業の創出に関する事項

(1) 「北海道の森プロジェクト」の実施

旭川エリアの家具・木工は斬新なデザインと高度な技術で欧米からも高い評価を受けていますが、これまではトドマツ(針葉樹)を使って家具を作ることはほとんどありませんでした。また、トドマツはこれから生産量の増加が見込まれる豊富な森林資源であり、新たな製品開発が課題となっています。

このような背景のもと、森林の現状を広く理解してもらい、木に触れ、親しんでもらうことを目的に、旭川出身絵本作家あべ弘士氏のイラストが描かれたベンチ、テーブル等のトドマツ家具を(株)北海道ポットラックが企画・製作に携わり、旭川信用金の店舗において、平成26年から実証展示をしています。

<場所>

旭川信用金庫本店ロビー

<展示の概要>

北海道の森をテーマにした、ベンチ、
テーブル、絵本ラックの設置

<企画・製作>

(株)北海道ポットラック

<デザイン>

あべ 弘士(絵本作家)



2 地元企業の販路拡大や取引機会の拡大に関する事項

(1) 「地域連携 きた北海道 食の商談会」の開催

道北地域の食品産業の振興を図るため、「地域連携 きた北海道 食の商談会」を開催し、道内外の食の専門家による商談の実施及び消費者ニーズや専門家の視点による幅広いアドバイスを行うことにより、道産品の販路拡大を図るほか、新商品の開発や高付加価値化を支援しました。

なお、商談会は、道北の食の魅力をPRする「北の恵み 食べマルシェ」「道北地域連携 駅マルシェ」と連動して開催することにより、効果アップを図っています。

また、参加企業のアンケート結果では、

- ・「短時間にたくさんのバイヤーと商談ができた」
- ・「商品の改良、パッケージ、販売方法について参考となる話が聞けた」
- ・「バイヤー目線で商品を分析していただき、様々なアドバイスをいただけ参考になった。」

などの意見が寄せられ、約7割の企業が「満足」と回答。中でも、14社から、「受注」・「物産展への参加要請」など、何らかの成果があったとの回答がありました。

名称：地域連携 きた北海道 食の商談会

日時：平成26年9月12日（金）～ 14日（日）

場所：フィール旭川（旭川市1条通8丁目）

対象事業者：地場並びに道北地域の農・畜・海産物、これらを活用した加工食品等を取り扱う事業者（計29社が参加）

3 上川地域におけるブランド化推進に関する事項

(1) 「駅マルシェ」の開催

平成22年に開催されてから、5回目の開催となった「北の恵み 食べマルシェ」は、道北グルメが集結する巨大市場イベントとして、すっかり定着しております。



昨年も旭川市内・道北各地の農・畜・海産物を使った自慢料理や加工品が勢ぞろいし、旭川買物公園などにおよそ300のテントが立ち並びました。

平成24年度から、「食べマルシェ」の一会場として「道北地域連携 駅マルシェ」が開催されており、昨年度は、JR旭川駅舎での展示販売会のほか、上川総合振興局と旭川信用金庫が中心となり、「地域連携 きた北海道 食の商談会」を開催しました。

名称：道北地域連携 駅マルシェ2014

日時：平成26年9月13日（土）～ 15日（月）

場所：JR旭川駅 旭川市宮下通7丁目

（展示販売会出展社数：59社）

4 その他

(1) 観光PRへの協力

地域の豊かな資源を活用した魅力ある商品を「食べマルシェ」を通して情報発信することで、「地域に埋もれた商品」を「地域の魅力を伝える商品」として全国に向けてアピールするとともに、新たな地域産業の創造・発展へ寄与することを目的として開催される「駅マルシェ」において、上川総合振興局、留萌振興局及び宗谷総合振興局が駅マルシェ実行委員会と協力して観光やイベント等の情報を発信し、道北地域の観光振興を図りました。

名称：道北地域「食と観光」PR

日時：平成26年9月13日（土）～ 15日（月）

場所：JR旭川駅 旭川市宮下通7丁目

主催：駅マルシェ実行委員会

(旭川信用金庫、JR北海道旭川支社、旭川ターミナルビル（株）)

